

## 平成 28 年度文京区障害者地域自立支援協議会 相談支援専門部会検討内容

### <実施状況>

- (1) 第 2 回（平成 28 年 10 月 6 日）…本人・家族の高齢化に伴う課題について意見交換 ～身近な事例を通して～、文京区指定特定相談支援事業所連絡会からの報告

### <内容総括>

#### 1. 本人・家族の高齢化に伴う課題について意見交換 ～身近な事例を通して～

##### 【検討事項】

本人と家族の高齢化に伴う課題について意見交換を行うこと。現状としてどのように乗り越えているのか、解決できない問題があるのか、今後課題になりそうなものがあるのか、具体的にどのようなサービスがあればよりよい生活ができるのか参考事例を元に考えていきたい。

##### 【委員の意見】

- ・ グループホームや入所施設、障害者の居場所づくりを考えていかなければならないと思う。
- ・ 地域での生活が困難と思う理由は住まい確保や在宅サポートの難しさがあるからだと思う。
- ・ 障害者の親離れ、子離れの課題もある。わが子がどうなっていくかを考えていくことは必要。親が良いと思っている現状だけでなく、将来を見据えて支援者が情報提供していかなければならないと思う。
- ・ 障害者の介護保険サービス移行にあたり、障害に詳しくないケアマネージャーが多いと感じている。
- ・ 制度や法律の枠組みで決めてしまうととらわれ過ぎてしまうが、それを超えられるような取り組みがあってもよいと思う。
- ・ 来年、居住支援協議会を立ち上げる予定。これからの住宅等について検討したい。

##### 【まとめ】

- ・ 課題は物理的な住まいなのか、住まいの中でのマンパワーなのか。新たな支え合いを探していったときに、それらを探っていくステップができあがっていくと良い。
- ・ 障害への理解とともに個人をどう捉えていくか。生きることは継続性。制度で切られるものではない。
- ・ 障害があると、人としての選択権が狭まってしまう。住まいに関しても選択肢が狭まる、自由がなくなる。年齢が達すると介護保険が優先されてしまう。選択権を育む支援が大事。つながる力を養う人やサービスが必要。またつなげる支援者、つなげる場所も必要。
- ・ 障害者福祉とは何か。社会的障壁によって能力を発揮する機会を奪われたという社会モデルの考え方がある。社会の側が変わっていくことによってある程度差別や偏見が軽減するだろうが、個人の痛みや辛さは社会モデルでは解決できないし、今後の不安解決もできない。放っておけない思いがアウトリーチにつながっていく。

#### 2. 文京区指定特定相談支援事業所連絡会からの報告

区内計画相談支援の現状、事業所や相談支援専門員が増えないなどの課題と、計画相談だけではなかなか経営が成り立たないということが話し合われている。文京区内では計画相談を専従で行う相談支援専門員がおらず、兼務で担っている状況。計画相談を専従で行える環境が必要ではないかという意見も出るが、計画相談だけでは経営的に難しい。このような実情を自立支援協議会でもう少し課題にするとよいのではないかと協議している。計画相談を行うとサービス利用に必要な計画作成だけでなく、日常困っているような手続きや病院同行など、計画に類する相談は基本の相談に関わってくるため、相談支援専門員は基本相談支援も担うことになる。その他文京区内で精神障害の一般相談ができる場所は基幹相談支援センターと文京地域生活支援センターあかりのみ。一般相談できる事業所がないということも課題にあがっている。